

~ています。これからのグローバル社会で様々な国の方と一緒に仕事をしたりしていくには、相手の懐に入るというか、相手を理解することが必要不可欠だと思います。言語には、その国の文化がぎっしりと詰まっています。例えば、ごはん、というものを一つとっても、日本語は稻→米→ご飯 と状態によって言葉が変化しますが、英語ではすべて Rice です。このことからも、日本人にとってのお米の重要性がうかがえます。こういうところから相手の価値観、大切にしていること、などを理解していくことが、円滑なコミュニケーションの第一歩だと思います。

**清水**：私も似ていますが、日本語以外の語学ができることで、人とのつながり・幅が広がり、また、手に取り易くなる書籍・雑誌・インターネットの情報が増加しますよね。それによって、新しい知見、異なるものの見方を、自ら入手することが可能になると思います。また、異なる言語そのものを理解することで、その言語の下で培われた文化、社会をより良く理解することが可能になると思います。たとえば、外国の情報を入手する際に、外国のウェブページを日本語翻訳で読めばよい、との見方もあるかもしれません、ウェブページで十分な情報が得られるとは限りませんよね。書籍、雑誌、人との対話、自分で現地を見て回る等が必要になることもあると思います。書籍について翻訳を読めばよいとする見方もあるかもしれません、読書で得る知識は、芋づる式に繋がっていく面もあると思いますが、翻訳されたものからは、なかなかそこはから先へ興味を持って自ら辿っていくような応用が効きづらいかと思います。そうした事からも、外国語を学ぶ事は様々なことに繋がっていく素晴らしい事だと思っています。

**ゆっか先生**：おっしゃるとおりだと思います。これからのお子さんたちには、単に、試験に受かればいい、道案内

程度の英会話ができるようになればいい、ということではなく、世界情勢を理解したり、世界の人とスムーズにコミュニケーションをとったりすることによって、世界で起きていく問題と一緒に解決していくほしいと思います。

**清水**：入試のためではなく「人と人が国を越えてわかるために学ぶ」「知りたい事について、世界の様々な事例を知るために学ぶ」など、そうした人生に大切な英語教育になる必要があります。

私たちは、それぞれの国が、豊かで安全であるように、協力し合う必要があります。人は生まれながら平等なのに、人種差別が起きたり、戦争が起きたり、心が痛む報道が多々ありますが、それはお互いに対する理解不足も背景にあるのだと思います。武蔵村山市も、周辺に横田基地がありますし、様々な国から来たご家族も生活しています。「お友達になりたいから、あなたの事をもっと知りたい」「私の事をもっと知って欲しい」「あなたの国の事を教えて」「日本はこんな素敵な国ですよ」そうした興味や優しさから学びあい、国際理解に繋がっていくと嬉しいです。私は武蔵村山市議会の議員として、武蔵村山市の子供たちが、このまちに住んでいるからこそ得られるものが増えていくよう、これからも教育に取り組んでいきます。

#### ■あべゆかこさんの情報は[こちら](#)

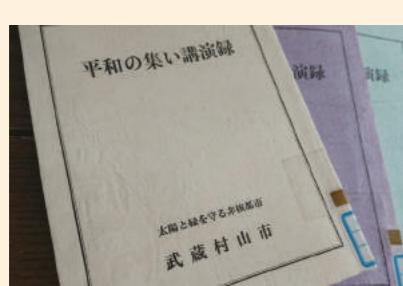
- 一般社団法人ペアリド英語ペアリーディング協会（未就学児の親御さん向け家庭での英語の学び方・お子さんへの声のかけ方講座） <https://www.pairedreading.com/>
- 「教えない英語」 コミオ英語教育ラボ（小学生以上の方向けオンライン英語教室） <https://www.commio.info/>



是非メルマガにご登録ください。英語教育の最新情報や、子育てに関するお役立ち情報を届けています。

**【個別相談】**ソーシャルディスタンスを保ちながら、対応しています。年間数百件の相談を市民の皆さんからいただきます。暮らしのお困り事、教育の事、道路等整備、新型コロナウイルスの影響による経営の相談、市に提案したいアイデアなど、様々なお話を市に届けています。お気軽にご連絡ください。

#### あやこの本棚



#### 「平和の集い講演録」

図書館、歴史民俗資料館分館で読むことができます。武蔵村山市在住の方々が、当時の戦争体験などを語った、貴重な体験談です。この講演録を読むと、平和の尊さと共に、家族の絆、日本人として大切にしたい心、様々な事を考えさせられます。

**【清水あやこ後援会に加入している皆様へ】**ご家族で後援会に加入されている人数が多い世帯に、たくさん「あやレポ」が送られてしまうため、一世帯一通、連名にさせていただきました。世帯主氏名とご家族氏名の順に違いましたらご連絡ください。又、ご家族分必要な場合もお気軽にご連絡ください。

#### 清水あやこプロフィール

- ・昭和 54 年 4 月 24 日神奈川県藤沢市生まれ。・自衛官の夫、高校生、中学生、小学生 3 人の子供がいます。・植物が大好きで、コウモリラン、多肉植物、クリスマスローズなどを育てています。
- 〒208-8501 東京都武蔵村山市本町 1-1-1 武蔵村山市役所議会事務局清水彩子宛

清水あやこ  
ホームページ



武蔵村山市議会  
ネット配信ページ



## 武蔵村山市議会議員 清水あやこ 活動報告

# あやこ REPORT

あやれば

## 安心できる優しいまち武蔵村山市に

皆様、いかがお過ごしでしょうか。家にいる時間が長くなった事から、動物を家族に迎えたり、運動不足解消に、ウォーキングを始めた方も増えているそうです。私は、様々な講演が、Web視聴できるようになったため、パソコンを通じ、全国の様々な勉強会に参加しています。得た情報を市政に反映していきます。早く各地域で、皆様にお会いしたいです。インフルエンザが流行る季節になりますので、引き続きご自愛ください。

**【令和2年第3回定例会(9月議会)】** 決算特別委員会が開かれ、副委員長を務めました。

決算特別委員会では、令和元年度の市の事業などが適切に行われたか、効果はどのように表れたかなどを審査しました。武蔵村山市の令和元年の決算は、

歳入は、市税収入額が1億6,685万1,142円前年度比1.6%の増、収納率は98.0%であり、前年度比0.3%の増、歳出の執行率は96.2%で、概ね予算どおりに執行され、賛成多数で認定されました。



歴史民俗資料館分館



龍の入不動尊

#### 【一般質問】

##### ①歴史民俗資料館、資料館分館のPRについて質問しました。

・武蔵村山市大南3丁目5-7に、歴史民俗資料館分館があります。

図書館で貸し出している「平和の集い講演録」などを置いていただき閲覧スペースを設置しましたのでご利用ください。

・武蔵村山市に、東京都環境局が公開している「東京の名湧水」があることをご存知でしょうか。「龍の入不動尊(武蔵村山市三ツ木5-9-5)」にあります。白糸の滝と呼ばれる湧水で、古代から御神水として尊ばれてきました。水質良好で、水を汲みに来る人が絶えないとあります。歴史散策コース案内マップがリニューアルされたため、是非武蔵村山市を巡ってみてはいかがでしょうか。

##### ②障がい児支援の提供体制について質問しました。

市町村は児童発達支援センターを1か所設置することになっていますが、武蔵村山市が設置しているという児童発達支援センターは、以前から東京小児療育病院の幼少部にあり、重度心身障がい児のお子さんが対象のものですが、児童福祉法 第四条2項に基づき、身体に障がいのある児童、知的障がいのある児童、精神に障がいのある児童(「発達障害者支援法」に規定する発達障がい児を含む)も利用対象となる支援が必要であると考え、以下の提案を市にいたしました。

#### 〈清水の提案〉

東京小児療育病院は重症心身障がい児への支援という専門性が高いため、もう1か所、武蔵村山市の「福祉・子育て・教育が一体となった児童発達支援センター」が必要と考える。

他の自治体では、

- ・児童発達支援事業
  - ・放課後等デイサービス事業
  - ・保育所等訪問支援事業
  - ・相談支援事業
  - ・外来訓練事業
  - ・親子通園事業
  - ・巡回相談
- などが実施されている。

本市の児童発達支援センターとして本当に必要な機能は、子ども家庭支援センター・教育相談室などとも連携をとった形のものである。

①相談(乳幼児から成人まで切れ目のないもの)

②コーディネート(適切な支援につなげていくなど福祉サービスの調整など)

③情報共有(母子健康手帳・就学支援シート・マイファイルなど)

④療育(児童発達支援事業・発達支援親子グループなど)

⑤家庭支援(ペアレントメンター事業・親の会・育児講座など)

⑥現場の職員支援(巡回保育相談・職員研修など)

⑦理解啓発(配慮が必要なこどもへの周囲の理解啓発) そうした支援ができる児童発達支援センターの設置を検討していただきたい。



## 阿部ゆかこさんをお迎えして、英語教育についてお伺いしました。

本日は、今話題の「教えない英語」を提唱されている、ゆか先生ことあべゆかこさんにお話を伺います。東京生まれのゆか先生は、高校1年生のときに家族と一緒にニューヨークに引越しし、現地の高校で落ちこぼれになつたのだそうです。ですが、一人のアメリカ人の先生との出会いで自己肯定感を高めてもらったことがきっかけで、英語を勉強しニューヨークの大学に進学。そこで成績優秀者リストに載り、奨学金でイタリア旅行にも行かれたそう。卒業後は、日本の企業で通訳・翻訳・商品企画などを約15年間されていましたが、「通訳はいない方がいい」という想いから英語教育事業をスタート。現在は、小学生から大学生向けのオンライン英語教室(コミオ英語教育ラボ)の運営と、未就学児の親御さんに、ご家庭での英語の学び方や自立したお子さんを育てるための声のかけ方をお伝えしている一般社団法人ペアリード英語ペアリーディング協会を立ち上げ、代表理事をしていらっしゃいます。

**ゆか先生：**やはり、これまでの日本の英語教育は文法中心、ヨーロッパなどでは会話中心、ということがあげられると思います。2年ほど前に夫の転勤でシンガポールに半年だけ暮らしました、そのとき次男が現地のインターナショナルスクールに通いました。そこでヨーロッパのママたちとたくさん知り合って、英語教育について聞いてみたりもしたのですが、例えばオランダでは、小学校から徹底的に耳と口を使ったトレーニングをするのです。ちなみにこのオランダ人ママさんは、8か国語を話せるのでびっくりしたのですが。でも、ヨーロッパの方々が英語を流ちょうにお話されるからといってどこの国でも早期教育をしているのかというとそうでもなく、例えばベルギーでは、本格的に英語を勉強するのは中学校からなのだそうです。でも、ベルギーは狭い国ではありますが、場所によって母国語がオランダ語(フラン西語)、フランス語、ドイツ語にわかれるので、小学校のうちから、母国語がオランダ語の人はフランス語、母国語がフランス語の人はオランダ語を習うのだそうです。幼少期から、複数の言語を使うことに抵抗がないのでしょうか。でも、もちろん学校にもよるようですが、基本英語は中学校からしか学ばないという点は意外でした。

**清水：**「8か国語話せるのはすごいです。他の国も意外と英語教育を受ける時期は早いわけではないんですね。話をしているうちに覚えられるというのは感覚としてわかります。授業内容が4技能(聞く・読む・話す・書く)5領域化されていますが、どのようにバランスよく学習していくべきなのでしょうか?

**ゆか先生：**最近は英語4技能4技能という言葉をたくさん耳にしますが、いっしょくたにするのではなく、聞く、読むはインプット、話す、書くはアウトプットなので、そこで分けて考える必要があります。お子さんが小さいうちは、インプットの量を多くしてあまりアウトプットにはこだわらず、小学校3年生くらいから少しづつアウトプットを意識することを個人的にはお勧めしています。

**清水：**確かにそうですね。4つに分かれているようで、実は2つに分かれているんですね。そう考えるとわかりやすいです。積み重ねを大切にしていきたいのですが、(幼)小・中・高・大・社会人と一貫して円滑に接続されるためには、どのような工夫が必要と考えられますか?

**ゆか先生：**将来的な理想としては、幼少期から、ご家庭で、お子さんが自立して英語を学ぶ環境を作っていくことが大切だと思っています。私は「教えない英語」を提唱しているのですが、社会人になっても先生に教えてもらい続けるわけにもいかないと思いますので、自分で学び続けることが必要だと考えています。大学生や社会人になったら、英語を学ぶことに時間やお金を費やすのではなく、そのエネルギーをそれぞれの専門分野やお仕事に振り向いていただきたいなど。英語はツールでしかありませんから。現状ですと、教育格差、といいますか、英語がある程度小さいときから学んできた方とそうでない方の意識レベルの差が心配です。私の生徒たちもそうですが、小学生さんでも英検でいうと3級、準2級、2級レベルにかかる子が続出しているのですが、2級というと一般的には高校卒業レベルなのですね。こういうお子さんたちはせっかく小学生のうち

にそこまで英語力を高めて得意意識を持っているのに、中学校に入ったら初步からスタートする、ということでは生徒さんたちのモチベーションもあがらないかなと思います。かといって、小学校のときに英語を特に勉強していなかった方たちは中学からしっかり基礎を学ぶ必要がありますので、急に難しいことをやって苦手意識を作るのもいけません。苦手意識をもってしまいさえしなければ、習得自体は中学校からでも全く遅くはないのですから。得意、不得意、という意識の差がついてしまうだけが心配です。英語教育の過渡期にある現在は、一クラスに様々なレベルの生徒さんがいることになりますから、個人個人とまではいかなくても、細かいレベル分けなどきめ細かい対応が必要になると思います。英語に対して、全く持つ必要のない苦手意識や劣等感を抱えるお子さんを減らすことが大切だと思っています。

**清水：**そうですよね。ピアノなど他の事にも言えるかと思いますが、どのレベル合わせればいいのかというと、なかなか合わせられませんね。きめ細かい対応で個人に合った学習ができるんですね。

ゆか先生は、海外にお住まいだったそうですが、グローバル化社会で必要なスキルって、どのようなものだとお考えですか?

**ゆか先生：**私は高校1年生のとき突然ニューヨークに家族で引っ越すことになり、予期せぬ形で本当に突然別世界に放り出されました。そのとき衝撃的だったことはたくさんありました。日本にいるとき当たり前だと思っていたことが当たり前ではなく、井の中の蛙だったのだなあと、外に出て初めて知りました。そんな経験から、グローバル化社会で必要だと思ったことは3つです。

**1. 質問、議論、そして自分の意見を言うスキル。**これは一般的な日本人に圧倒的に足りないものです。日本では、子どもの頃から沈黙は金、という教育を受けます。今は変わってきてているとは思いますが、少なくとも私の時代はそうでした。特別なことがない限り、授業中自由に質問したりしませんし、私の時代は、クラスでディスカッション、ということもほとんどありませんでした。でも、アメリカの学校では、自分の意見を言ってこそ存在意義がある、という風潮があります。これはグローバル社会全体としてそのためで、日本人だからといっておとなしくして評価されることはありません。人の意見を理解したうえで、きちんと自分の考えを述べるスキルを習得する必要があります。

**2. 様々な体験** 机上の勉強ばかりしているのではなく、子どもの頃には様々な体験をする必要があると思っています。自分で体験したことないと身につかないですし、自分の言葉で語ることができません。例えばですが、あるとき小学4年生の女の子さんと、英検3級の過去問を解いていて、野球についての長文がありました。例えば、inningは“回”(9回表、などの)のですが、この生徒さんは野球を見たことがなかったので、“回”と言われても何かわからなかったのです。そうなると、英語云々の話ではなくなりますので、このレッスンは途中から野球の授業になりました。これは会社員時代、通訳や翻訳をしていたときから感じていましたが、英語、日本語、という以前に、話の中身を知っているということが何より大切です。ですので、小学生のうちは、料理、工作、旅行、など様々な機会を通じてなんでも自分で体験してみることが大事だと思っています。です

ので私の教室でも、様々なことを親子で楽しく体験できるイベントを、今はオンラインで開催しています。

**3. 日本の知識** 意外かもしれません、グローバル社会で必要なことは、日本の知識です。私たちはあくまで、日本人としてグローバル社会で生きていきます。いわば、一人一人が日本代表、なのです。例えばアメリカの学校に行ったら、そこにいる数人の日本人が“日本代表”になります。外国人の人は日本のことについて詳しい人も多いので、日本の歴史や文化のことを色々聞いてもらいます。そのときに、日本人なのに、自國のことを知らない…

というのは恥ずかしいですし、日本代表として正しいことを伝えていかなければなりません。アメリカにいたとき、私自身も知識がなく恥ずかしい想いをしたことがあります。例えば、私事ですが、私は映画が好きなので、アメリカの大学で映画の授業をとったことがあります。アメリカ映画をたくさん見られるのかと思ったら、授業中にみんなで見たのはなんと黒澤明監督の七人の侍、羅生門、などなのです。それをアメリカ人のクラスメート達は複数回見たことがあって、議論をしている。私はそれらの映画は知っているものの、日本人なのに、一度も見たことがなかったのです…初回の授業だけ当たらないように願いながら静かに過ごし、その後慌てて図書館でそれらの映画を見ました。グローバル社会で各国の人たちと対等に渡り合っていくには、日本人としてのアイデンティティが必要です。そのために、日本のことはしっかり学ぶ必要があると思います。

**清水：**1と2は、議員の世界に似ているものを感じました。私たちも議論をしますし、自分の考えをしっかりと伝えます。発言するからには、責任も出ますので、発言する前に、偏った考えではないか、思い込んでいる間違いはないかなど、確認をするため、多くの情報を収集します。様々な考え方の議員が議論をするため、数々の困難がありますが、乗り越える度に、知識が深まり、精神も強くなり、自立していくような感覚があります。「グローバル化社会」と「自信をついた自立」には、結び付きがあるように感じました。**3**の「日本の知識」ですが、日本人が知らない日本の事って多いですよね。伝統文化、郷土愛なども大切に継承していく必要がありますし、歌舞伎、能、落語、様々な名作、そうした文化芸術にも触れていく、日本人である魅力を伝えて欲しいです。ゆか先生の教室は、実際に海外で暮らした経験から取り入れている事がレッスンに反映されているため、複合的に身につけるべき事を身に付けられますね。学校だけでなく、家庭で親が子供と一緒に英語に取り組める方法はありますか?

**ゆか先生：**お子さんが小さいうちから、英語の本に親しんだり、色々な体験をしたりするのが近道だと思います。具体的なやり方や、モチベーションを高めるお子さんへの声のかけ方は、長い話になりますので私の講座でお伝えしています。

**清水：**講座でこれからも学ばせていただきたいと思います。ゆか先生は、外国語教育が必要な理由についてどのようにお考えですか?

**ゆか先生：**外国語教育は、単に言語を学ぶということではなく、異なる文化、習慣、歴史などに心を寄せ、自分と違うものでも恐れずに理解する、ということだと思つ~(次のページにつづく)

**清水：**何年も学校で英語を習ってきたのに、話せる人が少ないですね。海外の英語教育と日本の英語教育の違いには、どのようなものがあるのでしょうか?